

日本口腔・咽頭科学会

理事長 岩井 大



理事長
岩井 大

耳鼻咽喉科はその名が表すとおり、耳、鼻、咽頭、喉頭を診療の柱としています。その柱の一つである咽頭とそこにつながる口腔領域に関する臨床、研究を統括する学会が日本口腔・咽頭科学会です。口腔・咽頭は、解剖学的に耳鼻咽喉科が扱う耳、鼻、喉頭のすべての部位に通じている幹川部位とっていいでしょう。扱う疾患も、嚥下・構音・味覚障害、良性・悪性腫瘍、唾液腺疾患、感染症、睡眠障害など非常に多彩です。それだけに口腔・咽頭科学は、今後最も発展が期待できる分野の一つと言えます。

基礎的分野では、病態や機序がまだまだ不明な疾患が多くあります。扁桃を摘出することで掌蹠膿疱症・IgA腎症・胸肋鎖骨過形成症などの治療が期待できる扁桃病巣疾患、COVID-19でも注目された味覚障害、分子病態に未解明な点が多い唾液腺腫瘍、IgG4関連疾患やシェーグレン症候群。そのほか、アデノイド扁桃肥大のメカニズム、口腔アレルギーの病態、口腔粘膜における免疫寛容の仕組みなど、今後さらなる研究成果が期待されます。

臨床的分野では発展が目覚ましく、睡眠時無呼吸症候群に対する外科手術手技の開発や舌下神経刺激装置の導入、低侵襲唾液腺管内視鏡手術の普及、古典的手術であるアデノイド・扁桃切除術における新規デバイスを用いた新たな術式の検討などに加え、経口的ロボット支援手術も保険収載が目前です。患者さん

にとっても、そして術者にとっても負担が少なく、かつ効果的な手術手技や治療法の開発と普及が進みつつあります。しかし一方で、高齢者の増加に伴い急増している嚥下障害、味覚障害、唾液腺機能低下などに対する予防法や根本的な治療法は見いだされておられません。ロボット支援手術や新デバイスを含む、さらなる術式器具の改良とともに薬物の開発が急務です。

口腔・咽頭領域は、人々のQOLに直結する部位です。「生きるを支える」耳鼻咽喉科医にとって、この領域の研究や治療はまさにチャレンジングで、患者さんとともに喜びを享受することができる領域です。ぜひ皆様の力で、この領域を開拓して頂ければと存じます。

